

令和6年度第1回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和6年9月24日（火） 15:00～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）

学校 岸本 光正（校長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）
相馬 しのぶ（入試広報グループ 課長代理）
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）
小浜 悠樹（キャリア支援グループ 係長）
木村 元
原口 徹志（議事録）

以上 17 名

【欠席】 委員 松田 博公（日本伝統鍼灸学科 顧問）
委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

【議題】 令和6年度の重点目標と取り組み

(1) 2025.4 校名変更と学校ブランディング

2025年4月に学校名を「日本医専」へ変更することについて報告を行った。校名を変更するに至った経緯や、全教職員の参加により校名・タグラインを決定したことなどが紹介された。

新学校名「日本医専」
タグライン「人の未来を、すこやかに。」

人の未来を、すこやかに。

日本医専

また、これからのあるべき姿として作成したステートメントメッセージを作成したことが報告された。

【委員からの意見】

- ・とても良いと思うが、東洋医学なので、心身一如が大切。
ブランディングの中に、「心」は入っているが、「身体」が入っていない。
- ⇒タグラインの「人の未来を。すこやかに。」の『すこやか』の部分に。
身体のことにも意味として込めている。
- ・ステートメントメッセージの中で、「あなたの挑戦が、私たちの挑戦です。」
学生と共に歩んでいくイメージを受け好印象だった。
- ⇒学生たちには「皆さんはプロフェッショナルである」という意識を持たせていく。
- ・ステートメントメッセージの「いつまでも笑っていたい」「あなたの挑戦が、私たちの挑戦です。」の部分が好印象。学生たちに行きたいと感じてもらえそう。
- ・タグラインの句読点「、」「。」について、どのような観点で盛り込んだのか。
- ⇒共に創り上げたプロの意見としては、
人の未来を、⇒句点で区切ることで「未来」を際立たせる。
すこやかに。⇒読点があることで「すこやかに」の余韻を残せる。
- ・校名が長いと感じていたのでもわかりやすくよいと思う。
校名変更に向け、教職員全員で創り上げたことにより意思の統一がはかれた。
- ・敬心学園らしさがありとても良い。他校との圧倒的な差別化として、
心の教育を期待している。
- ・校名から「専門学校」を取り払ったことで認可されている専門学校であることを
市場に対してどのように誤解なく認知させるのか。
- ⇒専門学校の枠に囚われない教育を展開していくために「専門学校」の名称を
入れなかった。誤解を与えないよう戦略を立てブランディングを進めていく。
- ・小さな文字で構わないので「認可を受けた伝統ある専門学校」であることを
書いておくことで入学検討者やその親は安心する。
- ・校名変更について、卒業生をはじめとした外部の関係者から異議は出ていないか。
- ⇒（委員より）校友会関係者からは反対意見などは出ていない。
自身も卒業生だが6年間通って正式名称を言ったことはほぼない。
「日本医専」という名称も学生たちが普通に使っているので問題ない認識。
- ・ブランディングの方向性として、どういう人材を育成し輩出する学校なのか、
イメージしやすくする方策は考えているか。
- ⇒知識・技能の習得はもちろんのこと、非認知能力の育成が重要と認識。
未来に向かって生きていく学生を育てていきたい。
方向性について言語化できていない部分もあるので教職員とも議論していく。

(2) 新たな学びのプラットフォームの導入
KEISHIN.net の導入について報告を行った。

KEISHIN.net 目指す姿 敬心学園グループ

敬心学園が目指す職業教育の姿

パーソナライズ化による学習成果の最適化・最大化
↓
自学自習力の修得

職場で求められる高度なコミュニケーション力の修得
↓
真のブレンド教育の実現

KEISHIN.net 導入目的と意図 敬心学園グループ

テーマ
「学校主体の教育」から「学習者主体の学び支援」への転換



KEISHIN.net 導入目的と意図 敬心学園グループ

今まで（導入前）

教員

- ✓ 一人ひとりに合った課題の設定や個別対応をしたいが時間と労力がかかる
- ✓ 思うように成績が伸びない学生にばかり目が行き、成績上位者に対応できていない
- ✓ 本来予定していた内容を目の前の学生の定着状況によって変更せざるを得ない

学生

- ✓ 何を予習・復習すれば良いのかが分からない
- ✓ 授業中出てきたワードを「なんだっけ？」と考えているうちに授業が先に進んでしまう
- ✓ 試験の点数だけで良し悪しを判断し、本当の理解度は見えていない

↓

KEISHIN.net 導入後

パーソナライズ化された学び支援

学びに関する行動履歴（学習ログ）から1人ひとりに合った学びを提供する → 教職員が効果的なタイミング・内容・関わり方で学生に寄り添える

学生の自己学習をマネジメント

KEISHIN.netで個別最適な予復習の提案を行い、実行まで支援する → 提案・管理の部分で余裕が生じ、人対人にかたできないコアな学習支援を行える

【委員からの意見】

・「日本医専」のプラットフォームとして KEISHIN.net と名付けた意図は。

⇒KEISHIN.net＝学び支援の方法を抜本的に変えていこうという施策。
日本医専から先行導入し、敬心学園全体の質を向上させていく取り組みであり、新たな事業への展開の意図もある。

・知識面のフォローにはよい機能だと感じたが実技の向上にはどう寄与するのか。

⇒実技教育の面でも手技を録画して活用していく。

- ・国試対策に特化したものなのか。

⇒日常の授業の予復習や学校生活全般を担っていくシステムであり、国試対策のみに特化したものではない。

- ・自分の経験で参考になったのは先生たちの雑談や経験談。そういったコンテンツも盛り込んでほしい。

- ・とても良いシステムだが、導入により教員の仕事量はどうか。

⇒一時的には増えると思う。ただし導入後に質の高いデータやノウハウを蓄積していくことで、繰り返し活用できるコンテンツが充実し、効率化していくと見込んでいる。また AI を活用することで、学生に対し集中的に対応すべき部分が見えるようになっていく予定であり、その部分に教員のリソースを注いでいく。

- ・人口が減少していく日本において、今までの業態は難しくなっていく。知識・技術・能力はこういうシステムで向上していくはず。導入により生まれる時間やマンパワーを人の心を育てる時間に充ててほしい。

- ・日本はこうしたシステムの技術が非常に遅れている。日本でのみ使うことを考えるのではなく、2・3年後には世界のシステムと接続できることを見越しておくことが重要。

以上

令和6年度第1回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和6年9月26日（木） 14:00～15:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）
高橋 功（株式会社SEA Global 取締役副社長）
宗澤 岳史（株式会社Assatte 代表取締役）

学校 岸本 光正（校長）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
青木 春美（柔道整復学科 副学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）
小浜 悠樹（キャリア支援グループ 係長）
木村 元
原口 徹志（議事録）

以上 15 名

【欠席】 委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）
委員 小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）

【議題】 令和6年度の重点目標と取り組み

(1) 2025.4 校名変更と学校ブランディング

2025年4月に学校名を「日本医専」へ変更することについて報告を行った。校名を変更するに至った経緯や、全教職員の参加により校名・タグラインを決定したことなどが紹介された。

新学校名「日本医専」
タグライン「人の未来を、すこやかに。」

人の未来を、すこやかに。

日本医専

また、これからのあるべき姿として作成したステートメントメッセージを作成したことが報告された。

【委員からの意見】

- ・「日本医専」という校名については読みやすく、なじみやすい印象である半面、専門学校の文字が削除されることは問題ないのか。
⇒校内でも様々な角度から校名候補を比較し、選定した。
「専門学校」や「学校」の文言削除については法的に問題ないことを確認済み。
- ・ワークショップを行い、教職員の意見を反映しながらブランディングを行ったのは重要なポイント。
- ・雰囲気を考えると英語やカタカナを入れるより「日本医専」がしっくりくる。
- ・イメージカラーやロゴマークも戦略的に決めていく必要がある。
医専のイメージとして「健康」「すこやか」といった印象を得られるとよい。
- ・先生たちの意見も大切だが、卒業生など関係が深く愛着がある方の意見ももらって決めるのもいいのではないか。
⇒現在、パートナーシップを組んでいるプロダクションと協議を進めている段階。
その後、関係者にご意見をいただきながら決定していく。
卒業生の意見をいただくのはとても良いと感じたので校友会とも共に進めていく。

(2) 新たな学びのプラットフォームの導入

KEISHIN.net の導入について報告を行った。

目指す姿

敬心学園グループ

敬心学園が目指す職業教育の姿

パーソナライズ化による学習成果の最適化・最大化

自学自習力の修得

職場で求められる高度なコミュニケーション力の修得

真のブレンド教育の実現



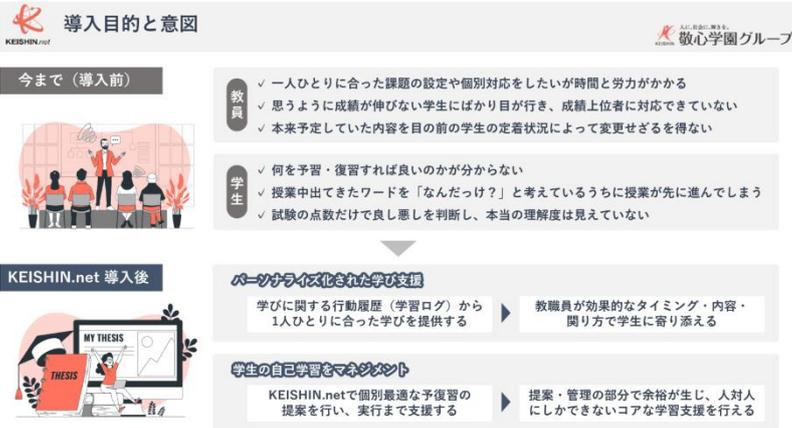
導入目的と意図

敬心学園グループ

テーマ

「学校主体の教育」から「学習者主体の学び支援」への転換





【委員からの意見】

- ・デジタルツールは教職員・学生双方使いこなせるのか。
- ・年次ごとに活用率の KPI を作り、使用率などを上げていくのはどうか。
- ・取り組み自体は素晴らしいと感じたが、あくまでシステムは道具。
使う側のリテラシーも含め、啓蒙し、理解して使ってもらえることが必要。
学生はデジタルネイティブなのであまり問題ないと感じているが、
教員側への定着が重要。

⇒何のために導入し、どう使うのかを教職員・学生へ何回も説明する必要がある。
第1フェーズとしては学習ログ・行動ログを取り、本人へレコメンドを出す程度。
ただし情報を蓄積することで、学生ごとの結果予測を打ち出すことも可能になる。
ユーザーのアクティブ化のため、学生にとって有益な情報も盛り込み、
学生生活にとってなくてはならないものとしていく。

- ・（教職員より）毎日のログインを促進するための施策はなにがあるか。

⇒毎日見るものとして天気予報や新聞のコラム、占いなどを盛り込むのはどうか。
また、季節の時事ネタや薬膳的なメニューなども生徒の興味を引くかもしれない。

⇒（委員より）若い人は短時間で触れられるメディアでないと離れてしまう。
毎日の発信は発信側の負担も大きいいため、見る側の属性に合わせて
最適なタイミングを検討すべき。

令和6年度第2回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和6年1月28日（火） 14:00～15:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）

学校 岸本 光正（校長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）
森山 晃義（入試広報グループ マネージャー）
相馬 しのぶ（入試広報グループ 課長代理）
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）
木村 元
楠本 剛浩（議事録）

以上 18 名

【欠席】 委員 松田 博公（日本伝統鍼灸学会 顧問）

【議題】 自己評価結果及び第三者評価の受審準備から設定した重要課題について

○内容

第三者評価の審査準備をする中で見えてきた課題を報告した。
「産学連携」による企画・開発と教育のアップデートを重点課題の一つとして設定した。

○委員からの質問・意見

- ・自己評価と第三者評価の結果に差異があった場合の対応
→改善点を再検討し対応する
- ・評価結果の公表方法
→評価結果を学校 HP 上で情報公開
- ・学生からの意見の収集方法・内容
→授業アンケート（年1回）、リアクションペーパー（コマごと）、
在校生・卒業生アンケート（年1回）に加えて、学生モニターによる
教学活動の改善を現在計画中。
- ・第三者評価の評価者について
→評価結果に偏りが生じないように、評価者の年齢層やメンバー構成への配慮が
必要である

以上

令和6年度第2回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和6年1月30日（火） 14:00～15:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）
高橋 功（株式会社 SEA Global 取締役副社長）
宗澤 岳史（株式会社 Assatte 代表取締役）
加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）

学校 岸本 光正（校長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
青木 春美（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）
森山 晃義（入試広報グループ マネージャー）
沢田 秀樹（入試広報グループ 課長代理）
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）
木村 元
楠本 剛浩（議事録）

以上 18 名

【欠席】

【議題】 自己評価結果及び第三者評価の受審準備から設定した重要課題について

○内容

第三者評価の審査準備をする中で見えてきた課題を報告した。
「産学連携」による企画・開発と教育のアップデートを重点課題の一つとして設定した。

○委員からの意見

- ・今後の具体的なアクションプランの策定が重要。
※数字が独り歩きしないよう、実効性の高いアクションを検討していくべき

以上